

令和6年度 第1回 野田市自転車等駐車対策等協議会 次第

日 時 令和6年7月4日

午前10時00分から

場 所 野田市役所8階大会議室

1 開 会

2 市長あいさつ

3 委員紹介

4 議 題

(1) 会長及び副会長の選出について

(2) 野田市駅周辺の自転車等駐車場の整備について

(3) 愛宕駅周辺の自転車等駐車場の整備及び自転車等の放置禁止区域の設定について

5 閉 会

議題 1

会長及び副会長の選出について

野田市自転車等駐車対策等に関する条例第 15 条第 1 項に定める会長及び副会長を委員の互選により選出を求めるものです。

議題 2

野田市駅周辺の自転車等駐車場の整備について

1 野田市駅周辺における自転車等駐車場のこれまでの経緯について

○公益財団法人自転車駐車場整備センターによる駐輪場の整備

野田市駅周辺の自転車等駐車場は、公益財団法人自転車駐車場整備センター※にて、平成2年から平成14年にかけて整備されました。

(公財)自転車駐車場整備センターでは、協定により用地を一定期間無償で提供してもらうことで、自転車駐車場を整備し、協定に基づく一定期間が経過した後において、駐車場施設は用地提供者に無償で譲渡することとされています。

※公益財団法人自転車駐車場整備センター・・・自転車利用者の利便の増進及び道路交通の安全と円滑化を図るため、自転車駐車場の整備に関する事業等を行っている団体

◆(公財)自転車駐車場整備センターによる整備

平成2年8月1日 野田市駅第1、第2、第3駐車場を整備①②③(用地：東武)

平成4年6月1日 野田市駅第4、第5駐車場を整備④⑤(用地：野田市)



平成12年8月1日 ①②③を東武不動産(株)へ無償譲渡

平成15年4月1日 ④⑤を野田市へ無償譲渡

○野田市駅市営第1及び第2自転車等駐車場の移転

野田市駅市営第1及び第2自転車等駐車場④⑤は、野田市駅西土地区画整理事業により令和2年3月31日をもって使用できなくなることから、その対策について、平成31年度第1回野田市自転車等駐車対策等協議会にて審議されました。

野田市では、審議結果を踏まえ、当時東武不動産(株)にて経営していた野田市駅第1自転車駐車場①施設を借用して移転することで、市営自転車等駐車場として存続させることとし、現在まで引き続き利用いただいております。

○その他の民営駐輪場

野田市駅周辺では、民営の駐輪場⑥が経営されておりましたが、野田市駅西土地区画整理事業により令和4年9月30日に閉鎖となり、現在は、その後新設された三井不動産リアルティ(株)が運営する駐輪場⑦が稼働しております。

2 土地区画整理事業による自転車等駐車場の閉鎖について

野田市駅西土地区画整理事業の更なる進捗により、この市営自転車等駐車場①が移転補償の対象となり、令和7年3月31日をもって閉鎖になる予定となりました。

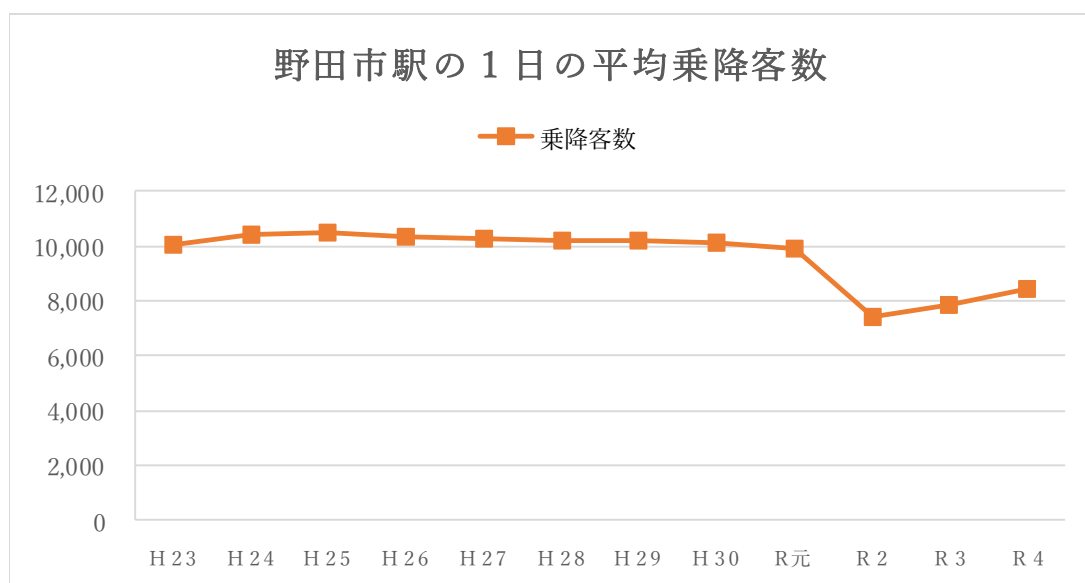
さらに、本土地区画整理事業では、東武不動産(株)の運営する野田市駅第2駐輪場②が市営自転車等駐車場と同じく移転補償の対象となっており、令和7年3月31日までに閉鎖になる予定となっております。

3 野田市駅の乗降客数について

東武鉄道(株)が公表している資料によりますと、野田市駅の1日の平均乗降客数は平成25年度の10,511人をピークに、年度平均で10,000人を超える乗降客数で推移していましたが、コロナ禍によるリモートワークの増加などの影響により、令和2年度には7,392人まで落ち込みました。

現在は徐々に回復している状況です。

年 度	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R 元 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022
乗降客数 (人)	10,081	10,420	10,511	10,361	10,293	10,211	10,177	10,099	9,932	7,392	7,829	8,461



4 野田市駅周辺の自転車等駐車場の状況について

野田市駅周辺の自転車等駐車場は、市の野田市駅市営自転車等駐車場①及び暫定無料駐輪場⑧、東武不動産(株)が運営する野田市駅第2駐輪場②及び第3駐輪場③、三井不動産リアルティ(株)が運営する駐輪場⑦の5箇所が運営されています。

この5箇所の自転車収容可能台数は1,254台であり、そのうち実利用台数は自転車881台(定期利用624台、一時利用257台)、原付6台(定期利用4台、一時利用2台)の合計887台となっています。

※野田市駅周辺の各自転車等駐車場の収容台数及び利用状況は別紙2-2のとおり。

○市営自転車等駐車場

市営自転車等駐車場の自転車の定期利用は、東武不動産(株)が運営する有料駐輪場の定期利用と比較すると安価であるため、満車またはそれに近い稼働状況となっています。

このため、市営自転車等駐車場の定期利用の申込みは随時受付しておりますが、申込時点で利用限度数に達していた場合はキャンセル待ち扱いとし、定期利用に途中解約が出た際に繰り上げて利用許可をしています。

○東武不動産(株)運営の駐輪場

東武不動産(株)の運営する2箇所の有料駐輪場の稼働率は合算で約46.5%と低くなっており、これは当該駐輪場の南方約200メートルの場所に市が暫定無料駐輪場を設置している影響が考えられます。

○三井不動産リアルティ(株)運営の駐輪場

三井不動産リアルティ(株)が運営する駐輪場については、野田市駅西土地地区画整理事業地内にて令和4年9月から営業を開始し、自転車の一時利用のみを取り扱っており、屋外型の駐輪場ではありますが駅前の好立地であることから高い稼働率となっています。

○各施設での原動機付自転車の対応状況

原動機付自転車については、市営自転車等駐車場及び東武不動産(株)の第2駐輪場にて対応しております。利用状況としまして、市営自転車等駐車場の収容可能台数として定期利用4台に対し利用が3台、一時利用1台に対し0台、東武不動産(株)の第2駐輪場の収容可能台数として定期利用40台に対し利用が1台、一時利用20台に対し2台となっており、利用状況としては少ない状況です。

5 野田市駅周辺の新たな自転車等駐車場の整備について

野田市駅西土地区画整理事業の進捗により、市営自転車等駐車場及び東武不動産(株)の野田市駅第2駐輪場を閉鎖することになります。このため自転車利用者のために新たな自転車等駐車場の確保が必要となるところ、東武野田線連続立体交差事業の進捗により、東武不動産(株)では、野田市駅北側の鉄道高架下へ有料の駐輪場[別紙2-4]を整備する計画を進めています。

市の自転車等駐車場の整備は、過去に開催した野田市自転車等駐車対策等協議会において「自転車等駐車場の今後の整備主体としては、民間の積極的参加を優先することとし、利用料金は利用者の負担とする。」との方針が示されており、この方針に基づき駅ごとに整備を行っております。

○市が設置している暫定無料駐輪場について

市が設置している暫定無料駐輪場は、野田市駅西土地区画整理事業の進捗状況により、各自転車等駐車場の閉鎖時期によっては駐車可能台数が確保できない状況も考えられたことから設置しているものです。

平成31年度第1回野田市自転車等駐車対策等協議会において、暫定無料駐輪場については、野田市駅の高架化が完成するまでは継続することとし、高架下スペースの利用が明確となった時点で、民間駐輪場施設の整備状況を考慮しながら閉鎖する時期を検討していくとされております。

6 令和7年度以降の自転車等駐車場の収容可能台数について

東武不動産(株)が計画する新たな駐輪場の収容可能台数は、自転車 583 台と原付等 33 台の計 616 台となっています。

また、東武不動産(株)の野田市駅第3駐輪場は、施設の東側の一部を封鎖し規模を縮小して営業しておりますが、利用台数の増加が見込める場合には、封鎖部分を解放することで更に 168 台分の収容台数を確保することができます。

新たな駐輪場完成後の駅周辺の自転車の総収容可能台数は、既存の東武不動産(株)の野田市駅第3駐輪場 422 台、三井不動産リアルティ(株)の駅前駐輪場 108 台を加え、計 1,113 台となり、実利用台数 881 台との比較では 232 台分の余裕が見込めます。

原動機付自転車については、現在の収容可能台数から大幅な減となりますが、実利用台数が 6 台と少数であるため、新たな駐輪場で十分対応可能であると考えます。

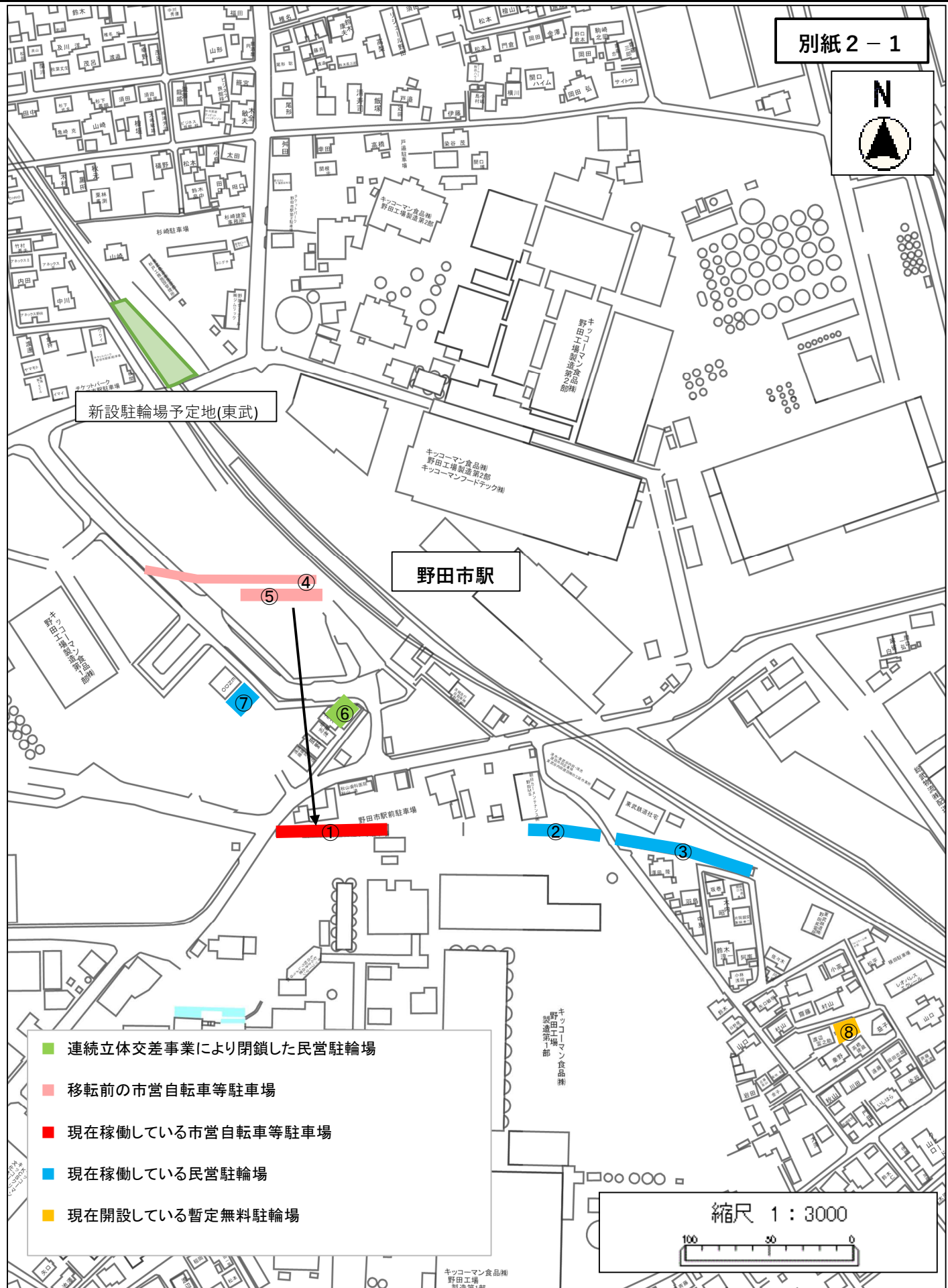
これに伴い、暫定無料駐輪場の閉鎖について検討した結果、令和7年度以降の野田市駅周辺の自転車等駐車場の収容見込みとして、閉鎖しても十分な自転車の収容台数が確保されることから、東武不動産(株)が計画する新たな駐輪場が開設された際には、暫定無料駐輪場を閉鎖いたします。

野田市駅周辺の自転車等駐車場の収容可能台数比較

(単位：台)

種 別		令和6年度まで	令和7年度以降	実利用台数
野田市	野田市駅市営	466 (5)	—	
東武不動産(株)	(仮称)高架下新駐輪場	—	583 (33)	
	野田市駅第2駐輪場	161 (60)	—	
	野田市駅第3駐輪場	254	254	
	※東側解放時	—	168	
三井不動産リアルティ(株)	駅前駐輪場	108	108	
小 計		989 (5)	1,113 (33)	
暫定無料駐輪場		200	—	881 (6)
合 計		1,189 (65)	1,113 (33)	

<カッコ内は原付等>



野田市駅周辺の自転車等駐車場の利用状況

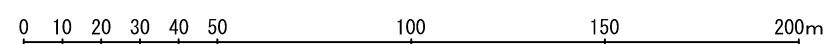
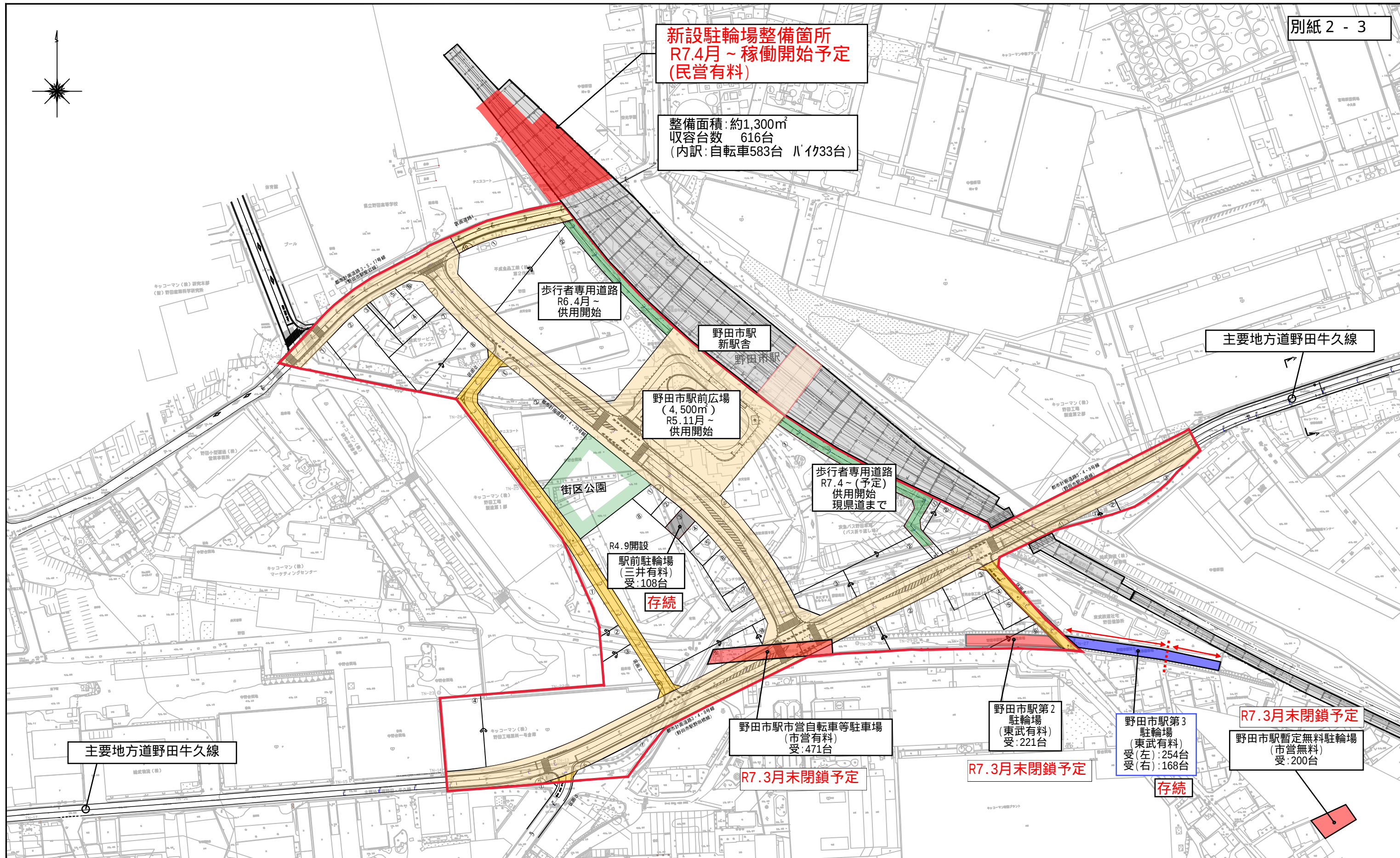
	令和 6 年度		備考
	収容可能台数	実利用台数	
市営自転車等駐車場			令和 7 年度 閉鎖対象
自転車定期	440台	440台	
自転車一時	26台	25台	
原付定期	4台	3台	
原付一時	1台	0台	
計	471台	468台	
東武不動産(株)第 2 駐輪場			令和 7 年度 閉鎖対象
自転車定期	161台	94台	
原付定期	40台	1台	
原付一時	20台	2台	
計	221台	97台	
東武不動産(株)第 3 駐輪場			
自転車定期	212台	90台	
自転車一時	42台	34台	
計	254台	124台	
三井不動産リアルティ(株)駅前駐輪場			
自転車一時	108台	90台	
暫定無料駐輪場			
自転車一時	200台	108台	
合 計	1,254台	887台	
(内訳) 自転車定期	813台	624台	
自転車一時	376台	257台	
自転車計	1,189台	881台	
原付定期	44台	4台	
原付一時	21台	2台	

※台数は過去 3 年で一番多い利用台数で計上したもの

一時利用は 1 日あたりの平均台数

野田市駅周辺駐輪場計画（案）

別紙 2 - 3



収容台数	凡 例	※特記なきものは下記の通りとする。	
------	-----	-------------------	--

種 別	定期利用	一時利用	合 計	備 考
自転車	520台	63台	583台	
小型バイク	18台	—	18台	
中型バイク	7台	8台	15台	
合 計	545台	71台	616台	

記 号		名 称	
		白線引き（定期：バイク用）	
設置間隔	角 度	台 数	備 考
800mm	90°	18台	小型バイク
1200mm	90°	7台	中型バイク
合 計		25台	

記 号		名 称	
		簡易ラック（自転車用）	
設置間隔	角 度	台 数	備 考
450mm	90°	460台	
合 計		460台	

記 号		名 称	
		白線引き（定期：自転車用）	
設置間隔	角 度	台 数	備 考
600mm	90°	60台	自転車ゆうゆうエリア（平置き）
合 計		60台	

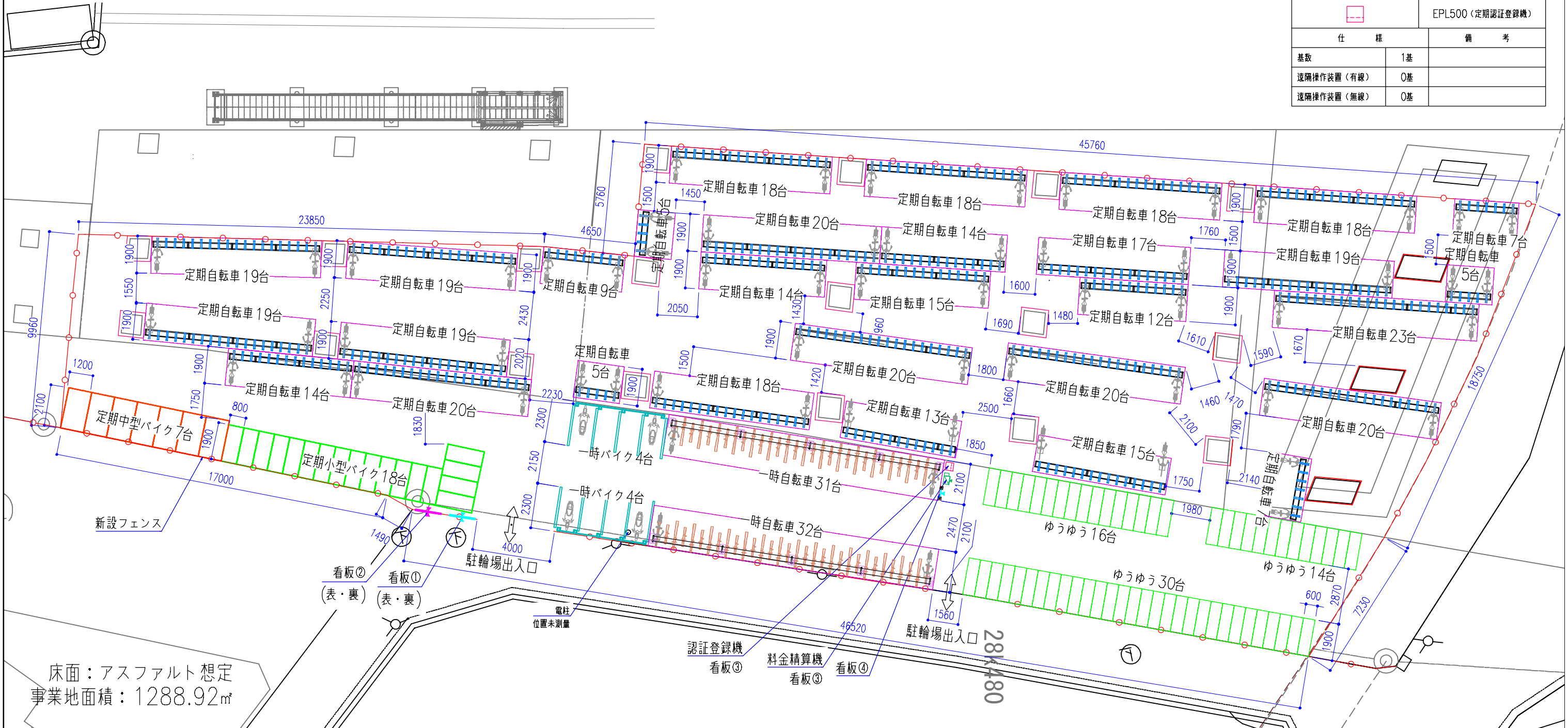
記 号		名 称	
		Bロック（自転車用）	
設置間隔	角 度	台 数	備 考
450mm	90°	63台	
合 計		63台	ベース連結仕様

記 号		名 称	
		GBロック（バイク用）	
設置間隔	角 度	台 数	備 考
1200mm	90°	8台	
合 計		8台	ライン色：白、エンドポール：2本

記 号		名 称			
		規約/案内看板			
No.	サイズ	種別	片/面	基数	備 考
①	盤面：W1200×H1200	自転車 一時利用	片面	2基	フェンス付
②	盤面：W1200×H1200	自・パ 定期利用	片面	2基	フェンス付
③	一時・定期 盤面：W400×H270	自・パ	片面	2基	精算機上 L型看板
④	本体：W600×H1600 盤面：W500×H1300	約定	片面	1基	縦型/自立 埋込み式
		新設フェンス		H1500	

記 号 / 名 称		UPS	有
		ヘッド照明	有
ES400RPa（料金精算機）		防犯ブザー	有
		ガンロック	有
仕様（基本）		音声案内	有
基数	1基	磁気カード対応	無
遠隔回線【無線】	1基	Dサインージ	無
ICカード対応	有	PASMO	有
IC回線【有線】	0基	Bプロテクター	無
IC回線【無線】	1基	LCD表示機	無
L型看板仕様	折曲103型		

記 号		名 称	
		EPL500（定期認証登録機）	
仕 様		備 考	
基数	1基		
遠隔操作装置（有線）	0基		
遠隔操作装置（無線）	0基		



議題 3

愛宕駅周辺の自転車等駐車場の整備及び 自転車等の放置禁止区域の設定について

1 愛宕駅周辺における自転車等駐車場のこれまでの経緯について

愛宕駅周辺の自転車等駐車場は、平成 25 年以前は駅東側に民間の駐輪場が経営され、市の駐輪場として、県道を挟んだ南側及び北側線路沿いの通称「大どぶ」上に仮設駐輪場を設置していたほか、駅西側には借地による市営の無料駐輪場を設置していました。

東武野田線連続立体交差事業の実施により、駅東口及び西口において駐輪場の閉鎖や移設などの整備が実施されました。

○駅東側の整備状況

平成 25 年 3 月 31 日民営駐輪場①の閉鎖 → 臨時駐輪場②を設置

平成 26 年 ②用地を工事ヤードで使用するため仮設駐輪場③を整備

南北大どぶ等仮設駐輪場④⑤の閉鎖 → 暫定無料駐輪場⑥を整備

平成 28 年 ③用地を工事ヤードで使用するため暫定無料駐輪場⑦を整備

○駅西側の整備状況

平成 30 年 8 月 31 日市営無料駐輪場⑧の閉鎖 → 仮設駐輪場⑨として整備

平成 31 年 ⑨用地を工事ヤードで使用するため仮設駐輪場⑩を整備

令和 4 年 ⑩用地を工事ヤードで使用するため暫定無料駐輪場⑪を整備

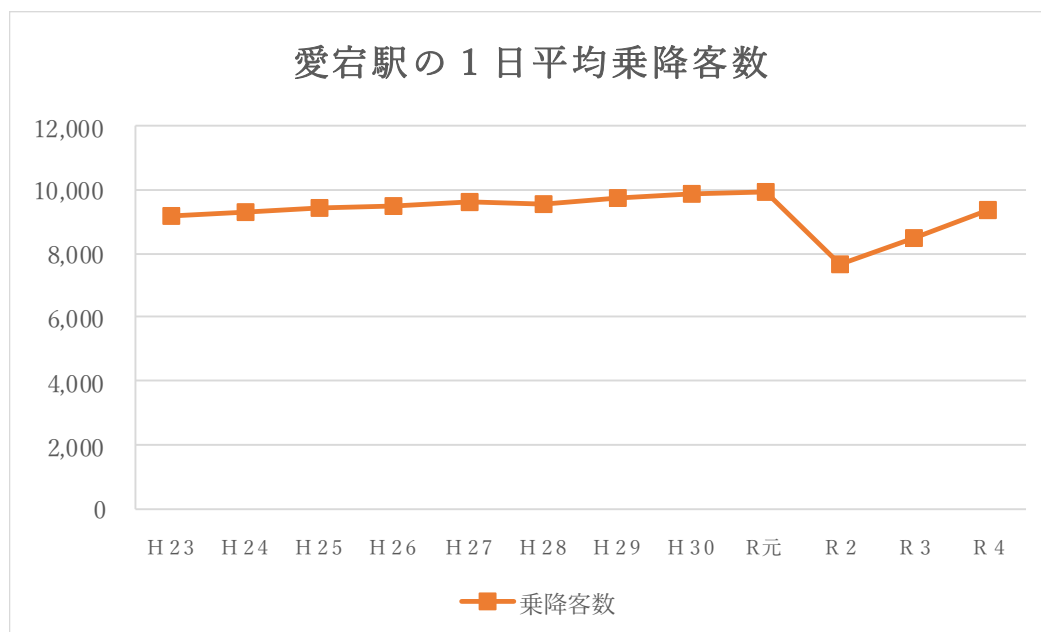
※暫定無料駐輪場⑥⑦⑪は現在も引き続き利用されています。

2 愛宕駅の乗降客数の推移について

東武鉄道(株)が公表している資料によりますと、愛宕駅の1日の平均乗降客数は令和元年に9,928人を記録し、10,000人目の乗降客数となっていました。令和2年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、リモートワークの増加などによって公共交通機関の利用が減少し、7,693人まで落ち込みました。

令和4年度の乗降客数は9,345人となり、コロナ禍前の乗降客数に戻りつつある状況です。

年 度	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R 元 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022
乗降客数 (人)	9,188	9,320	9,445	9,487	9,626	9,549	9,747	9,900	9,928	7,693	8,499	9,345



3 愛宕駅東口への民営駐輪場の開発計画及び暫定無料駐輪場の閉鎖について

○暫定無料駐輪場

現在、愛宕駅周辺では民間事業者が経営する駐輪場が無く、市で3箇所の暫定無料駐輪場を設置しております。

暫定無料駐輪場の総受入可能台数は3箇所合計で 1,423台 となっており、直近の実利用台数は 1,088台 となっています。

○民営駐輪場の新規開設

愛宕駅については、東口駅前広場に隣接する土地で連続立体交差事業開始前から民営の駐輪場がありましたが、事業により一時中止となっております。この土地は令和6年度末に土地所有者へ返還される予定となっています。

土地所有者からは、借地返還後において改めて駅前駐輪場を開設する旨の宅地開発事業事前協議書が都市計画課に提出されました。

計画されている新たな駐輪場では、自転車の収容可能台数として、予定している屋根付き部分での収容可能台数は約650台となっており、その他の敷地部分で屋外型駐輪場として約600台分（内バイク40台）の駐輪スペースを確保できるため、約1,250台の受入が可能となる見込みです。

この駐輪場は令和6年度末に土地返還を受けた後、すぐに開発に着手し、約3か月で工事が終了する見込みであるため、令和7年7月頃にオープンする予定と伺っております。

○市営暫定無料駐輪場の閉鎖について

愛宕駅前に整備される民営駐輪場で愛宕駅利用者の自転車の駐車台数を確保できることから、開設に合わせ、野田市駅暫定無料駐輪場と同様に、愛宕駅周辺の暫定無料駐輪場を閉鎖します。

4 自転車等の放置禁止区域の指定

野田市自転車等駐車対策等に関する条例第7条第1項では「市長は、自転車等駐車場が整備されている区域で、自転車等の放置により良好な生活環境が阻害されていると認められる区域について、自転車等の放置を禁止する区域（以下「放置禁止区域」という。）を指定することができる。」と規定されています。

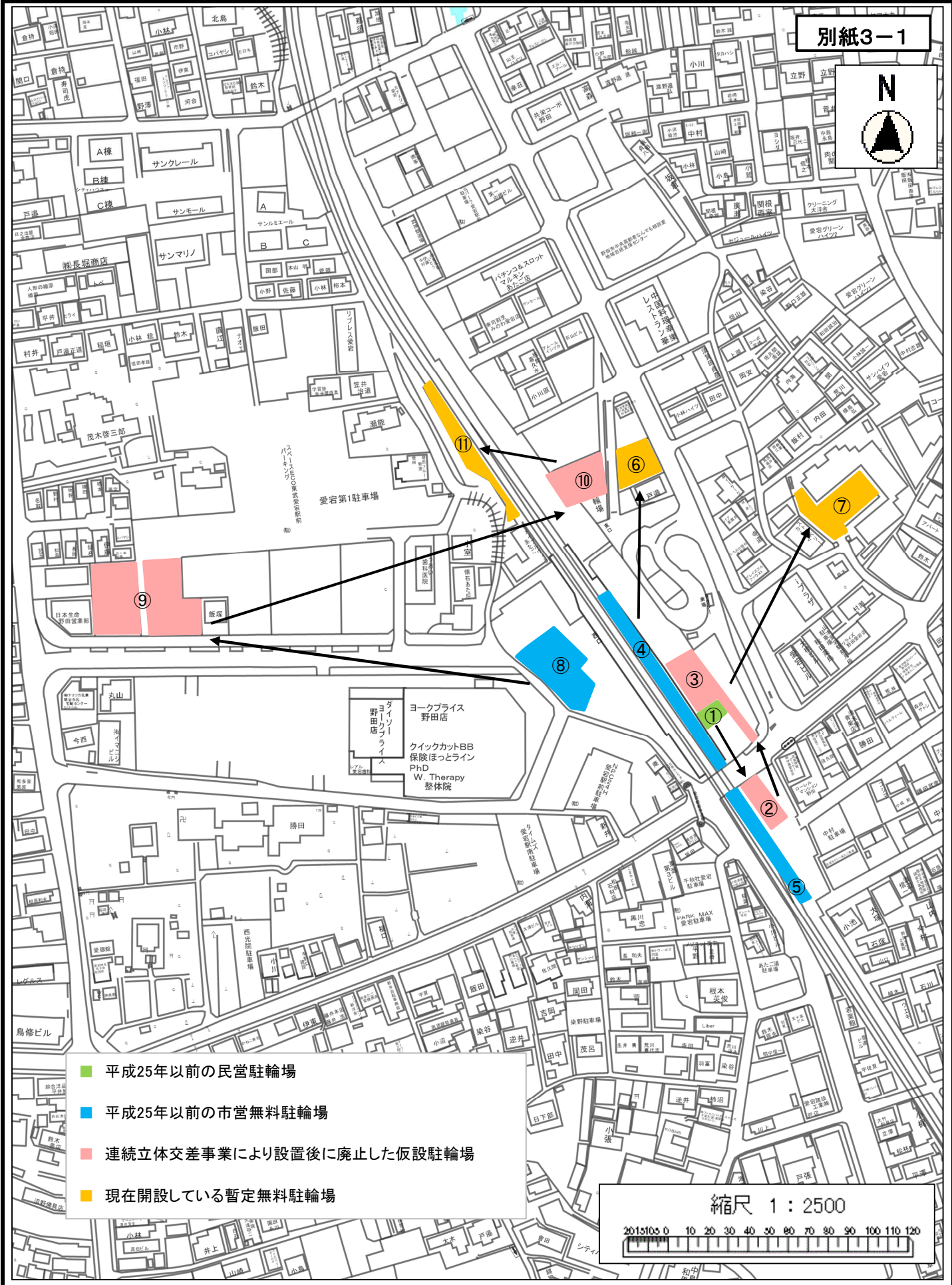
現在は川間駅、清水公園駅、野田市駅、梅郷駅を中心とした周辺地域を指定しており、七光台駅と愛宕駅の周辺地域については、恒久的な自転車等駐車場が整備されていないため放置禁止区域の指定がされておりません。

今回計画されている愛宕駅東口の民営駐輪場が整備された場合、現在の実利用台数全てを収容できる施設となっていることから、当該自転車等駐車場が計画に沿った形で整備され、施設利用が開始され次第、放置禁止区域の指定をすることといたします。

放置禁止区域の指定は告示によって行い、また駅を中心に概ね半径400メートルの範囲で任意に設定することになっていることから、愛宕駅周辺で別紙3-3]（案）のと通りの区域を指定したいと考えております。

放置禁止区域が指定された場合、他の放置禁止区域が指定されている市内各駅周辺と同様に、区域内の公共施設等に放置された自転車等について、委託業者による巡回及び警告書の取り付けをし、警告によっても移動していない自転車等があった場合は、強制撤去作業を実施します。

また、放置禁止区域内には、野田市自転車等駐車対策等に関する条例施行規則第2条に基づき、放置禁止区域標識[別紙3-4]を設置いたします。



- 平成25年以前の民営駐輪場
- 平成25年以前の市営無料駐輪場
- 連続立体交差事業により設置後に廃止した仮設駐輪場
- 現在開設している暫定無料駐輪場

縮尺 1 : 2500





ポケットパーク用地
 収容可能台数 440台
 直近実利用台数 424台

旧愛宕事務所跡地
 収容可能台数 335台
 直近実利用台数 324台

旧あたご保育所用地
 収容可能台数 648台
 直近実利用台数 340台

暫定無料駐輪場
 直近実利用台数 計1,088台

愛宕駅

新設駐輪場(民営)
 収容可能台数 約1,250台
 内訳 屋根付き 約650台
 屋外 約560台
 屋外(バイク) 40台

縮尺 1 : 2500

20 30 40 50 60 70 80 90 100 110 120



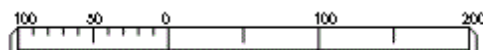
自転車等の放置禁止区域(案) (愛宕駅周辺)

N



- のうち、公共の場所等が放置禁止区域
- 放置禁止区域標識の設置箇所

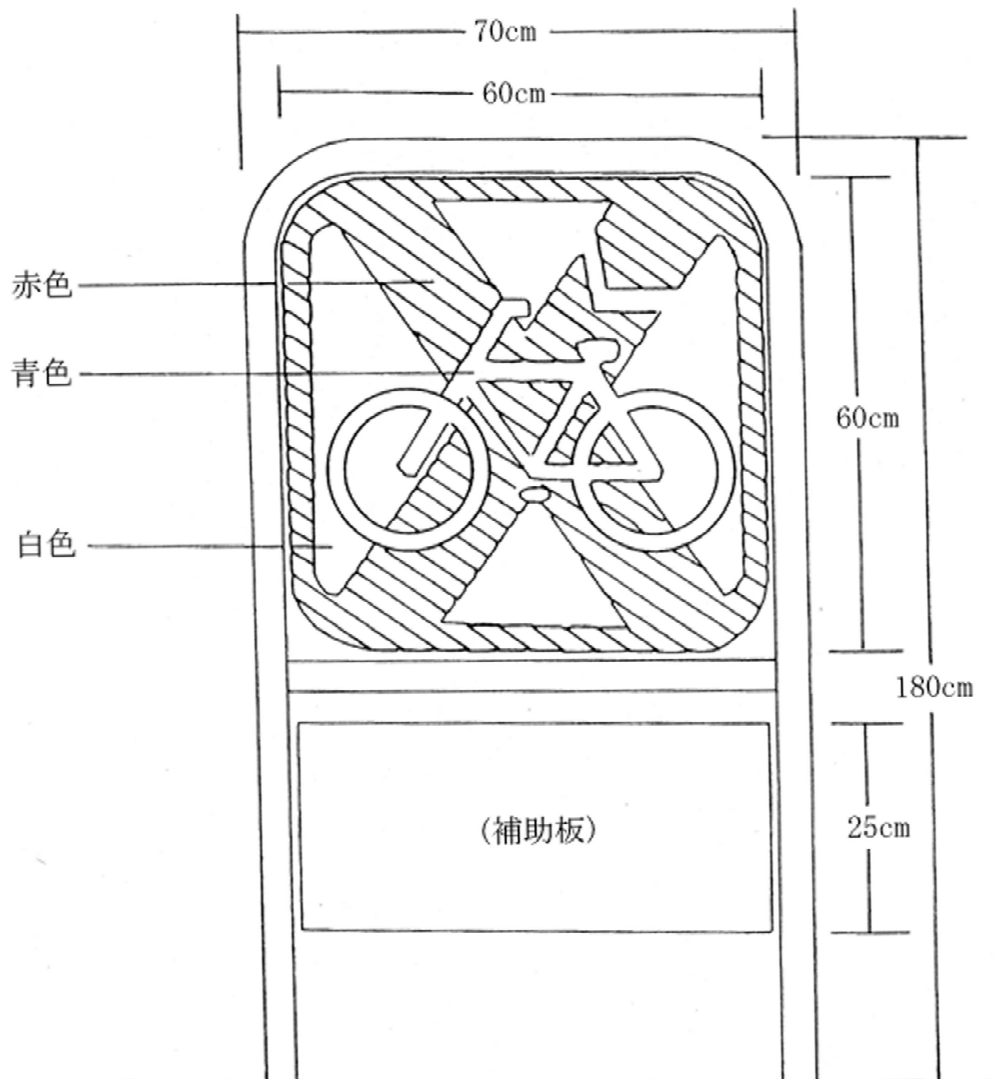
縮尺 1 : 5000



野田市自転車等駐車対策等に関する条例施行規則より抜粋

第 2 条 市長は、条例第 7 条第 1 項及び第 2 項の規定により自転車等の放置を禁止する区域(以下「放置禁止区域」という。)を指定したとき又は変更したときは、当該区域内に放置禁止区域標識を設置し、自転車等の利用者(所有者を含む。以下同じ。)に周知するものとする。

放置禁止区域標識



補助板	60cm	
	自転車等の放置禁止区域 この周辺は、自転車等の放置 禁止区域です。放置自転車等 は移送します。	25cm

野田市

資料 1

市内各駅の自転車等駐車場の整備状況

◆川間駅

現在は全て民営の駐輪場となっており、駅北口には東武不動産(株)が運営する地上2階建の屋内型として川間駅北口駐輪場が開設、南口には線路沿いに東武不動産(株)が運営する屋外型駐輪場と三井不動産リアルティ(株)が運営する2箇所の屋外型駐輪場が開設されております。

民間企業の運営駐輪場に加え、駅北口に7軒、南口に2軒の個人が経営する自転車預り所が開設されており、川間駅利用者の自転車の全てを受入れられる収容台数が確保されております。

令和4年3月31日に南口市営第1自転車等駐車場を閉鎖し、令和4年6月30日をもって駅北側線路沿いの鉄道用地に設置していた暫定無料駐輪場を閉鎖しております。

◆七光台駅

民営の駐輪場が無いため、駅東口に2箇所、西口に1箇所の暫定無料駐輪場を設置しております。

◆清水公園駅

現在は全て民営の駐輪場となっており、駅東口に東武不動産(株)が運営する屋外型駐輪場が1箇所、西口に東武不動産(株)他1社が運営する屋外型駐輪場が3箇所開設されており、清水公園駅利用者の自転車の全てを受入れられる収容台数が確保されております。

令和4年10月31日をもって駅北側の鉄道高架下に設置していた暫定無料駐輪場を閉鎖しております。

◆愛宕駅

民営の駐輪場が無いため、駅東口に2箇所、西口に1箇所の暫定無料駐輪場を設置しております。

◆野田市駅

駅東側県道沿いに、野田市駅市営自転車等駐車場を一部屋内型として設置し、駅南側には東武不動産(株)の屋外型駐輪場が2箇所、駅前に三井不動産リアルティ(株)が運営する屋外型駐輪場が1箇所開設されております。

この他に、駅南側に市の暫定無料駐輪場を1箇所設置しております。

◆梅郷駅

駅東口には、梅郷駅東口市営自転車等駐車を地上3階地下1階建の屋内型として設置しており、他に東武不動産(株)の屋外型駐輪場が1箇所開設されています。

駅西口には、東武不動産(株)及び三井不動産リアルティ(株)が運営する屋外型駐輪場が計8箇所開設されている他、個人経営の自転車預り所が1軒開設されており、梅郷駅利用者の自転車の全てを受入れられる収容台数が確保されています。

令和2年3月31日をもって駅西口の民有地に設置していた暫定無料駐輪場を閉鎖しております。

○有料市営自転車等駐車場の推移

野田市自転車等駐車場条例施行（平成15年4月1日）以降

年月	種別	場所
平成15年4月	開設	川間駅南口市営第1自転車等駐車場 野田市駅市営第1自転車等駐車場 野田市駅市営第2自転車等駐車場
平成21年12月	開設	梅郷駅東口市営自転車等駐車場
令和2年3月	閉鎖	野田市駅市営第1自転車等駐車場 野田市駅市営第2自転車等駐車場
令和2年4月	開設	野田市駅市営自転車等駐車場
令和4年3月	閉鎖	川間駅南口市営第1自転車等駐車場

野田市自転車等駐車場条例の制定時において、有料市営自転車等駐車場は3箇所開設しておりました。

平成21年12月1日に新たな有料の市営自転車等駐車場として、梅郷駅東口市営自転車等駐車場を開設しました。

令和2年には野田市駅の2箇所の市営自転車等駐車場が土地区画整理事業にて移転対象となり、閉鎖する必要があったため、代替策として当時の東武不動産(株)が運営する駐輪場施設を借用し、引き続き市営自転車等駐車場として運営をしております。

川間駅南口市営第1自転車等駐車場については、東武鉄道(株)が所有している鉄道用地を無償借地し、市で自転車等駐車場として施設整備を実施して有料の市営自転車等駐車場として運営しておりました。このような中、東武鉄道(株)から「既存の市営自転車等駐車場の老朽化に伴い、川間駅のイメージアップと駅利用者のサービス向上の観点から、自社で有料駐輪場の整備を行いたい。」との申出を受けましたので、土地の返還について令和3年8月31日の書面開催による令和3年度第1回自転車等駐車対策等協議会において報告し、自転車等駐車場設備を撤去した上で、令和4年3月31日をもって自転車等駐車場を閉鎖、東武鉄道(株)に土地を返還しております。